

1. センター発表会と講習会

土木技術センターでは、都および区市町村の土木技術系職員の技術力向上を図る目的で、毎年1回土木技術センター発表会と土木技術講習会を開催している。

土木技術センター発表会では、建設行政に重要な係わりをもっている調査開発課題について、当センター職員がその成果を発表している。また、講習会は、時代背景に沿ったテーマを選定し、外部の講師に講演を依頼している。

1. 平成18年度土木技術センター発表会

(1) 日 時

平成18年10月24日(火) 9:50~17:00

(2) 場 所

都庁 議会棟1階 都民ホール

(3) 演題と発表者

1) 土木技術センターの技術支援の概要

技術支援課 技術支援係 後藤 淳

2) 中川下流部における河川表流水の塩分濃度特性

技術調査課 河川・緑化調査係 岩屋 隆夫

3) 野川上流域の水文環境の考察

技術調査課 地下水調査係 川合 将文

4) NOx除去舗装の性能評価法と機能の持続性

技術調査課 道路環境調査係 峰岸 順一

5) 丸の内の保水性舗装に散水した場合の気温・湿度と熱輸送量

技術調査課 技術調査係 小作 好明

6) 東京低地の既設橋梁をモデル化した橋脚-基礎系の動的遠心載荷実験

技術調査課 地震防災調査係 廣島 実

7) 輪荷重走行疲労試験機を用いた道路橋床版の共通試験

技術調査課 材料施工調査係 関口 幹夫

8) 民間新技術の活用状況に関する調査結果

技術支援課 新技術評価係 馬場 敦

(4) 聴講者内訳

聴講者数173名であった。

その内訳は表-1のとおりである。

表-1 聴講者の内訳

	区市町村	知事部局	公営企業	その他
人	44	60(42)	23	46
%	25	35(24)	13	27

※()内は建設局を表す。

また、聴講者の年齢構成および業務分野は図-1、2のとおりである。

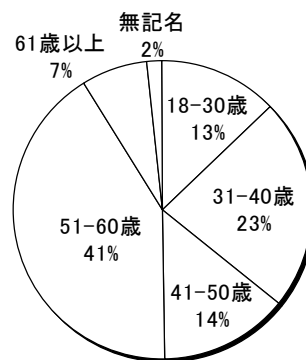


図-1 聴講者の年齢構成

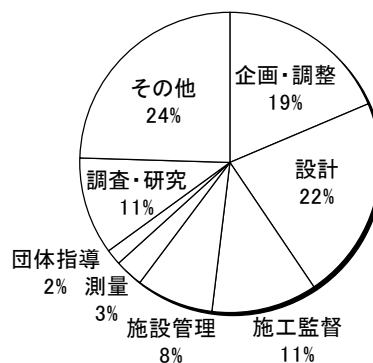


図-2 聴講者の業務分野

(5) アンケート結果

聴講者にはアンケートを配布し、回収率は約7割であった。以下に、回答の代表的な事例を記す。

1) 今後関心のあるテーマ

- (ア) 2007年問題に対応するための具体的な取組、新しいアイデア
- (イ) 保水性舗装の効果
- (ロ) 低騒音舗装の更新（打換と洗浄の時期等）
- (ハ) 光触媒によるVOC除去機能
- (ニ) アセットマネジメント
- (ホ) 地震対策（耐震補強等）
- (ヘ) 経年劣化コンクリートの補修
- (ヘ) 河川緑化
- (ケ) 河川表流水を散水した際に植生に及ぼす影響
- (コ) 雨水貯留・利用技術
- (サ) 島嶼部における技術的課題と対策

2) ご意見、要望

- (ア) 研究の背景など、導入部分を特に分かりやすくしてもらいたい。
- (イ) パワーポイントの画面を講演集に載せてもらいたい。
- (ロ) 専門用語を折々解説していた点に、好感がもてた。
- (ハ) 研究のための研究にとどまらず、事業実施に結びつく研究と成果の公表を目指してほしい。
- (ニ) 土木技術センターには今後もタイムリーな研究開発を期待している。



写-1 平成18年度センター発表会の様子

2. 平成19年度土木技術講習会

土木技術講習会は、「技術力の向上をめざして—先達に学び、先端技術から学ぶ—」をテーマに、大学や民間等から6名の講師を招き、開催した。

旧土木研究所から引き継いだ講習会も今年で36回目となり、都庁職員をはじめ区市町村職員、一般公募も含めると約450名の熱心な聴講者で会場は満席となった。

(1) 日時

平成19年6月20日(水)9:45~17:00

(2) 場所

都庁第一本庁舎5階 大会議場

(3) プログラム

1) 国民生活の向上に貢献する土木技術

—過去から未来へ—

東京工業大学教授

川島 一彦

2) 都市河川の変貌と豪雨の特性

中央大学理工学部教授

山田 正

3) コンクリートの原点にかえる

首都大学東京名誉教授

國府 勝郎

4) 快適な未来と光触媒の活用

(財)神奈川科学技術アカデミー理事長

東京大学特別栄誉教授

藤嶋 昭

5) 建設業における防災関連技術

鹿島建設株式会社土木管理本部部長

天野 玲子

6) 都市の未来を先導する公園緑地

(社)日本造園学会副会長

桐蔭横浜大学医用工学部特任教授

中部大学応用生物学部教授

涌井 雅之

(4) 講演内容

「国民生活の向上に貢献する土木技術ー過去から未来へー」(川島一彦講師)では、国民生活に大きく貢献し、国民の目線にあった土木技術の重要性を中心に、現在までの土木技術の発展や今後の土木技術者のあり方についてご講演いただいた。

「都市河川の変貌と都市豪雨の特性」(山田正講師)では、近年における集中豪雨による都市型水害や降雨流出計算手法を中心に、水工水理学・水文学について広くご講演いただいた。

「コンクリートの原点にかえる」(國府勝郎講師)では、コンクリートの起源から循環型社会におけるコンクリートまで、コンクリートの基礎から最新技術まで広くご講演いただいた。

「快適な未来と光触媒の活用」(藤嶋昭講師)では、光触媒の大元となる現象「酸化チタンの触媒反応」の発見から最新の空気浄化技術まで、注目の技術である光触媒の活用についてご講演いただいた。

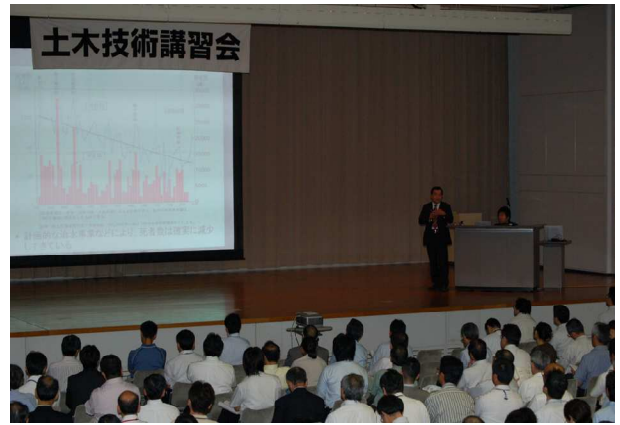
「建設業における防災関連技術」(天野玲子講師)では、地震危険度解析システム、都市型水害予測解析システム等ソフト系の技術を中心に、建設業における最新の防災関連技術についてご講演いただいた。

「都市の未来を先導する公園緑地」(涌井雅之講師)では、公園緑地が果たす新たな機能を中心に、新しい都市の時代を先導する公園緑地についてご講演いただいた。

(5) 講習会写真



写-2 講演の様子①



写-3 講演の様子②



写-4 講演の様子③



写-5 講演の様子④

(6) 聴講者

聴講者の所属は、建設局を含む知事部局職員が全体の約35%を占め、公営企業局と合わせて都職員は全体の約50%であった。区市町村職員は約30%、一般公募が約15%であった。

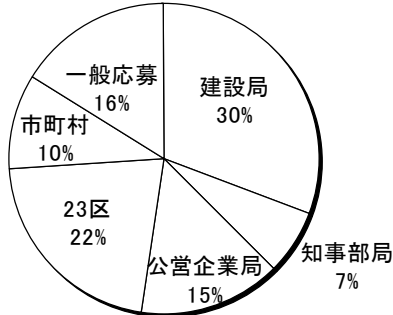


図-3 聴講者の所属

(7) アンケート結果

1) 技術系職員の業務分野について

技術系職員の業務分野については、各分野からバランスよく聴講いただいた。

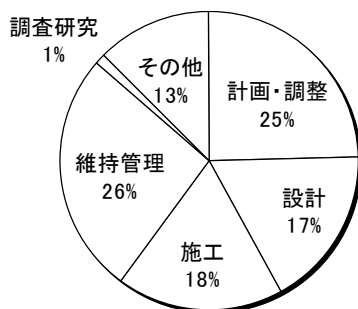


図-4 技術系職員の職種分野

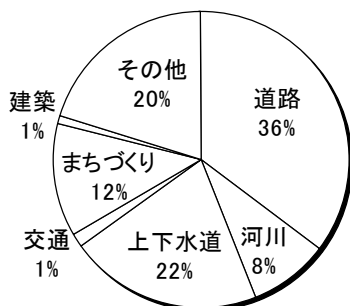


図-5 技術系職員の業務分野

2) テーマ設定について

「業務に役立つ」、「教養として参考となる」と回答した聴講者が95%以上を占め、概ねテーマ選定は妥当であったと考えられる。

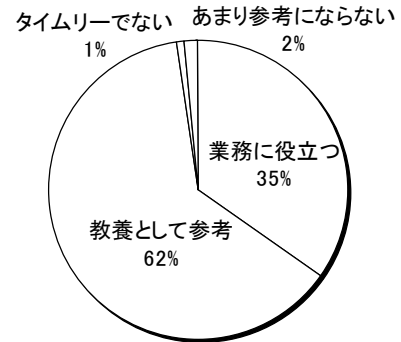


図-6 テーマ設定

3) 講義数、講義内容について

講義数がちょうど良いと回答した聴講者は約65%を占め、概ね講義数は妥当であったと考えられる。

一方、今年はテーマを「技術力の向上をめざして」と土木分野を広く対象としていたこともあり、講義内容が多岐にわたって良いと回答した聴講者が約85%を占めた。

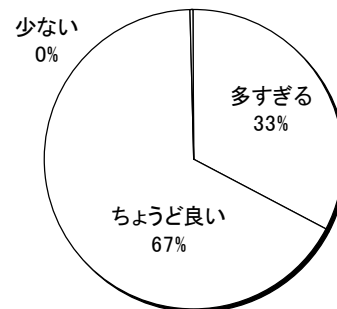


図-7 講義数

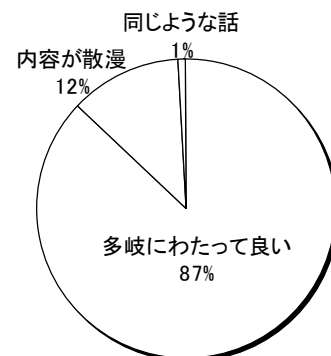


図-8 講義内容

4) その他

その他の自由意見では、「普段聞けない内容を受講できて有意義だった」、「各分野の新しい技術の話が聞けて参考になった」、「一つの講義の時間を長くし、具体的な話をもっと聞きたい」、「今後も同様な講習会を継続してほしい」などのご意見をいただいた。